

第六十七回 帝國議會 貴族院
造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案
特別委員會會議事速記録第一號

付託議案

造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案
東京高等農林學校及函館高等水產學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案
日本銀行金買入法中改正法律案
朝鮮銀行法中改正法律案
臺灣銀行法中改正法律案
家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案
郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案

委員氏名

委員長 伯爵二荒 芳徳君
副委員長 眞野 文二君
侯爵大隈 信常君
子爵綾小路 護君
男爵伊江 朝助君
坂野鉄次郎君
藤山 雷太君
下出 民義君
名取 忠愛君

昭和十年三月六日(水曜日)午後一時三十分開會

○委員長(伯爵二荒芳徳君) 只今カラ本委員會ヲ開會イタシマス、先ヅ政府案ニ付キマシテ、順次付託サレタ議案ノ御説明ヲ伺ヒタイト存ジマス

○政府委員(男爵矢吹省三君) 大臣ガ出席イタス答デアリマスケレドモ、差繰リ難イ用事ガアリマシテ伺ヘマセヌノデ、私カラ御説明申上ゲマス、先ヅ造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案、提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、造幣局ノ廳舎及工場ノ大部分ハ、概ネ明治初年ニ建造シタモノデアリマシテ、其建築ハ既ニ數十年ヲ經過シテ居リマスノミナラズ、耐震的構造上極メテ憂慮スベキ點ガ多クアルノデアリマス、依ッテ夙ニ之ガ改築計畫ヲ樹立シ、大正十五年度ヨリ昭和三年度ニ互ル三箇年ノ繼續費トシテ、豫算百十二萬三千餘圓ヲ計上イタシマシテ、造幣計畫上支障ヲ來スコトナク、且ツ建物ノ現狀ニ照ラシ急速改築ノ必要アリト認メマシタ壓延本場、試金場、壓印場等ノ改築ヲ行ヒマシタ、次イデ昭和八年度

及同九年度ニ互ル繼續費トシテ豫算百二十萬圓ヲ計上イタシマシテ熔解場、壓延場分室、動章工場等ヲ改築スルコト致シマシタ、然ルニ廳舎及附屬建物並ニ工場ノ中改築未了ノ部分、即チ彫刻場、壓印場ノ一部等ハ前ニ述ベマシタ理由ニ依リ、引續キ改築ヲ爲スノ必要緊切ナルモノガゴザイマス、又金庫ハ廳舎ノ地下室其他各所ニ散在シ、其多クハ土藏式ノモノデアリマシテ、今日トナリマシテハ甚ダ不完全ナモノデゴザイマス、且ツ昭和四年三月、造幣局特別會計法改正ノ結果、未發行ニ係ル補助貨幣ヲ造幣局資金ニテ保有スルコトナリマシタノミナラズ、近時金銀地金ノ品位證明又ハ精製依頼ニ依ル輸納數量ガ著シク増加イタシマシタ爲メ、當時多額ノ補助貨幣ト金銀地金ヲ保管スル必要ヲ生ズルニ至リマシタノデ、現在頗ル金庫ノ狹隘ヲ感ジテ居ル次第デアリマス、從ッテ速ニ堅牢ナル金庫ヲ設ケ、保管ノ完璧ヲ期スルノ必要ガアルノデアリマス、依ッテ是等ノ廳舎、工場其他ノ用ニ供スル建物及其附屬設備ノ新營ヲ爲ス必要ガアリマスノデ、昭和十年度乃至同十二年度ニ互リ右建物及附屬設備ノ新營計畫ヲ

立テタノデアリマスガ、其所要財源ハ造幣局資金ノ内二百十三萬五千五百三十三圓ヲ限リ、一般會計ニ繰入レテ之ニ充ツルヲ適當ト考ヘマシテ、之ガ爲メ本法律案ヲ提出イタスコトナツタ次第デアリマス、次ニ東京高等農林學校及函館高等水產學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案ノ御説明ヲ申上ゲマス、是ハ別ニ委員會ノ爲ニ用意シタ説明デゴザイマセヌノデ、本會議デ申上ゲタ説明ヲ此處ニ重ネテ御説明申上ゲルコトト致シマス、東京帝國大學農學部ノ實科及北海道帝國大學附屬水產專門部ハ、各昭和十年度ヨリ之ヲ獨立センメテ東京高等農林學校及函館高等水產學校ヲ創設スルコトト致シマシタ爲メ、昭和九年度末現在ノ東京帝國大學資金ニシテ、東京帝國大學農學部ノ實科ノ用ニ供スルモノ、昭和九年度東京帝國大學ノ歲入殘餘ニシテ同帝國大學農學部ノ實科ニ關シ生ジタルモノ、及ビ同年度北海道帝國大學ノ歲入殘餘ニシテ同帝國大學附屬水產專門部ニ關シ生ジタルモノハ之ヲ學校及圖書館特別會計資金ニ編入スル等、帝國大學特別會計ト學校及圖書館特別會計

トノ關涉ニ關スル規定ヲ設クルノ必要ガアリマス、本法律案ヲ提出シテ次第デアリマス、次ニ日本銀行金買入法中改正法律案ノ御説明ヲ申上ゲマス、昨年第六十五議會ニ於テ御協賛ヲ經マシタ日本銀行金買入法ハ、同年四月七日ヨリ施行イタシマス同時ニ、日本銀行金買入規則ヲ制定シ、同法施行ニ必要ナル事項ヲ規定イタシマシタ、爾來日本銀行ハ右法令ノ規定ニ基キ、政府ノ承認ヲ經テ產金業者ヲ指定シ、金ノ買入ヲ實行イタシテ參リマシタガ、本年三月二日迄ノ日本銀行ノ金買入數量ハ、政府ヨリ買入レマシタ國庫保有ノ金ヲ含メマシテ三萬四千三百七十一「キロ」餘、價額ニ致シマシテ九千五百三十三萬一千餘圓ニ達シタノデアリマス、其結果同法第四條第一項ニ依リ、政府ガ日本銀行ニ對シテ負擔イタシマシタ債務ハ四千九百五十萬二千餘圓ニ上ボリ、之ヲ同條第二項ニ定ムル政府債務負擔ノ限度一億圓ヨリ差引キマス、債務負擔餘力ハ五千四百九十九萬七千餘圓トナリマシタノデ、今後日本銀行ヲシテ金ノ買入ヲ支障ナク實行セシムル爲ニハ、此際政府ノ債務負擔限度ヲ一億圓増加イタシマシテ、二億圓ト爲スヲ適當ト認メ、茲ニ本法案ヲ提出シテ次第デアリマス、次ニ朝鮮銀行法中

改正法律案並ニ臺灣銀行法中改正法律案ニ付テ御説明申上ゲマス、朝鮮銀行及臺灣銀行ノ銀行券保證發行ノ限度ハ、朝鮮銀行券ニ付テハ五千萬圓、臺灣銀行券ニ付テハ二千萬圓デアリマシテ、右金額ヲ超過スル保證發行ニ對シテハ年五分ヲ下ラザル割合ヲ以テ發行稅ヲ課スルコトナツテ居リ、最近ハ最低率タル五分ノ課稅ヲ致シテ居リマス、然ル所最近内地ニ於ケル低金利ノ趨勢ニ伴ヒマシテ、朝鮮及臺灣ニ於キマシテモ金利ガ著シク低下シツツアルノデアリマス、試ミニ兩地ニ於ケル普通銀行手形貸付ノ平均金利ニ付テ見マシテモ、朝鮮ニ於テハ昭和七年六月ハ日歩二錢八厘、同八年六月ハ二錢七厘、同九年六月ハ二錢三厘トナツテ居リ、又臺灣ニ於キマシテモ昭和七年六月ハ二錢七厘、同八年六月ハ二錢五厘、同九年六月ハ二錢二厘トナツテ居リマス、又兩行ノ國債擔保貸出最低利率ノ如キモ、昭和七年三月ニ、朝鮮銀行ニ於テハ日歩二錢一厘ヨリ二錢ニ、臺灣銀行ニ於テハ二錢ヨリ一錢九厘ニ引下ゲテ以來、累次引下ガ行ハレマシテ、同八年七月ニハ兩行共一錢四厘、即チ年利五分一厘一毛トナリマシタガ、爾來今日マデ此利率ガ据置カレテ居ルノデアリマス、朝鮮及臺灣兩地ニ於ケル斯ノ如キ金

利ノ趨向ニ鑑ミマスレバ、兩行ノ制限外發行稅率ノ最低限度ハ、之ヲ低下スルノ必要ヲ認メマシテ、茲ニ本改正案ヲ提出イタシタノデアリマス、本改正案ニ依リマスレバ兩行ノ制限外發行ニ對シテハ年三分ヲ下ラザル割合ニ於テ大藏大臣ガ時々適當ト認ムル所ニ依リ、實際適用スベキ稅率ヲ定メルコトナルノデアリマス、以上ヲ以テ政府案ノ御説明ヲ終リマシタガ、尙ホ此委員會ニ付託サレテ居リマスル家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案、郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案、是ハ政府提出法律案デアリマセズデ、衆議院提案法律案ノコトハ御承知ノ通りデアリマシテ、政府ト致シマシテハ此兩案ニ對シテ反對ノ考ヲ有ツテ居ルノデアリマシテ、其政府ノ所見ハ本會議ニ於テ大藏大臣ヨリ申述ベマシタノデ御諒承ヲ得テ居ルコトト思ヒマス、ソレ故ニ此委員會ニ於テハ政府ノ意見ヲ重ネテ申スコトハ避ケマス、御質問ガゴザイマシタラバ此問題ニ付テモ十分御答ヘ申上ゲル積リデ居リマス

○委員長(伯爵二荒芳徳君) 只今ノ政府委員ノ御説明ニ對シマシテ、御質疑ガアレバ、ドウゾ御質問ヲ願ヒタウゴザイマス

○男爵伊江朝助君 政府提出ノ案ト此衆議院カラ廻ッテ來タ法律案トハ分ケテ御質疑イタシタラ如何ナモノデアリマスカ、全ク性質ガ違ヒマスカラシテ、最初ハ政府案ダケ願ヒマシテ、後ハ一ツ政府委員ノ方ノ退席ヲ願ッテ、御互ノ間ニ懇談會ニデモシタラ如何カト思ヒマスガ、如何ナモノデアリマスカ

○委員長(伯爵二荒芳徳君) 結構ト存ジマス、先ツ第一ニ政府案ニ付テノ御質疑ヲ御許シ致シマス、尙ホ伊江男爵ニ何ヒマスガ、衆議院送付ノ法律案ハ、政府委員全部退席シテ戴イタ方ガ宜シイト云フ意味デスカ

○男爵伊江朝助君 寧ロ其方ガ宜イデヤアリマセヌカ、政府ノ御趣旨ハ分ツテ居リマスカラ、此問題ハ衆議院ヲ七回モ通ッテ來タ問題デシテ、又去年ノ委員會ノ行懸リモアリマシテ、尙ホ委員ノ方ガ一ツ御懇談ヲ願ッテ、サウシテ一應協議シタ方ガ宜イデナイカト私ハ思フノデアリマスガ、外ニ御意見デモアリマシタラ又別デアリマスガ、私ノ意見トシテソレダケ委員長ニ御願ヒシテ置キマス

○委員長(伯爵二荒芳徳君) ソレデハ先ヅ政府提出ノ法律案ヲ議スルコトニシテ、アトデ御相談イタシマス、政府提出ノ法律案

ニ御質疑ガアレバ御許シヲ致シマス……只今政府提出法律案ニ付キマシテハ、御質疑ガナイヤウデゴザイマスカラ、又更ニ御研究ノ上デ此次ノ委員會ニデモ御質疑ガアレ

バ御許シ致ス事ト致シマシテ、衆議院送付ノ法律案ニ付テ懇談イタシタイト思ヒマス、伊江男爵ニチョット申上ゲタイト思ヒマスガ、速記ヲ止メマシテ、色々政府ニモ

聽イタ方ガ宜カラウカト思ヒマスガ、如何デセウカ

○男爵伊江朝助君 私ハ委員長ノ御意思ニ

委セマスデスガ、政府ノ御意思ハ大抵分ッテ居リマス、モウ絶對ニ是ハ斯ウスル事ハ出來ナイ、是レ以上ノ理由ハナイト思ヒマス、デスケレドモ是ハ衆議院ヲ七回モ既ニ通ッテ來タ問題デ、去年モ研究會ヲ代表シテ富小路君ト私デ、政府ニ斯ウ云フ事ヲ申シマシタ、衆議院ヲ數回通ッタ問題デ、何トカ是ハ臆ヲ付ケテ貫ヒタイト云フヤウナ御願ヲ、政府ヘ希望ヲ述ベタ、サウ云フ意味ニ於テ審査未了ニシテ終リタイ、來年改メテ何等カノ適當ノ處置ヲシテ戴キタイト云フヤウナ希望ヲ述ベテ、審査未了ニナッタ譯デアリマス、併シ政府トシテ何等ノ何モナク、唯反對ト云フヤウナ御調子デアリマスカラ、御互ノ間ニモウ少シ御懇談ヲシテ、

ソレデ臆ヲ付ケタイト云フ希望デアリマス
○委員長(伯爵二荒芳徳君) チョット速記ヲ止メテ

(速記中止)

○委員長(伯爵二荒芳徳君) 速記ヲ始メ

テ……

○政府委員(青木一男君) 先ヅ家祿賞典祿

給與未済ニ關スル法律案ニ對スル私共ノ考ヲ申上ゲマス、此法律案ノ内容ハ明治三年太政官布告藩制施行後ニ於テ家祿賞典祿ヲ有シタル者及其家名承繼人ニシテ明治九年八月太政官第百八號布告ニ依リ公債證書ヲ給與スル迄ノ間ニ於テ、其祿高ニ對スル給與ノ全部又ハ一部ニ給與不足ノアッタモノニ對シテ、明治三十年法律第五十號等ヲ準用シテ、公債證書ヲ交付シ之ヲ救済セムトスルニアルノデゴザイマス、其理由ハ、法律案理由書ニ掲ゲデアリマスル如ク、明治三年ノ藩制施行後ニ於テ家祿賞典祿ヲ有シタル者ニ對スル祿ノ給與未済ノ中、明治九年以後ノ分ハ明治三十年法律第五十號ニ依ッテ救済ヲ受ケケレドモ、明治三年藩制施行後明治九年ニ至ル迄ノ間ノ給與未済ノ分ハ、明治三十年法律第五十號ノ範圍外トシテ救済ヲ受ケケテ居ライカラ、一方ヲ救済シ他方ヲ救済セザルハ片手落ノ處置デアルカ

ラシテ、此際立法ニ依ッテ全部ヲ救済スルノガ當然デアアル、斯ウ云フ趣旨ニナッテ居ルノデアリマス、此點ガ問題ノ一番ノ骨子デアアルノデアリマス、只今ノ法律案提出理由ノ考ヘ方ガ、不幸ニシテ私共ト全然違ッテ居ルノデアリマス、明治九年ノ所謂金祿公債處分ナルモノハ、維新後ノ重大懸案デアッタ所ノ祿高制度ト云フモノヲ全然打切ルコトニナリマシテ、從來國カラ祿ノ支給ヲ受ケルト云フ地位其モノヲ、士族、卒カラ取上ガルコトニナリマシタノデ、ソレニ對スル救済トシテ、各人ノ祿高ヲ標準ト致シマシテ一定ノ金額ヲ算出シ、其額ニ相當スル公債ヲ一時ニ給與シタルノデゴザイマス、之ガ即チ金祿公債處分ナルモノデゴザイマス、然ルニ此交付公債計算ノ基礎トナリマシタル祿高帳ノ調ベニ不備ガアリマシタ爲ニ、公債給付額ニ間違ヒガアッタ、全部又ハ一部ノ給與不足ガアッタト云フノデ、其不足分ヲ追給スル爲ニ、明治三十年ノ家祿賞典祿處分法ナルモノガ制定セラレタノデアリマス、之ニ依ッテ見マシテモ、明治三十年ノ家祿賞典祿處分法ナルモノハ、將來祿高ヲ廢止スル代リニ、支給シタル公債ニ不足ガアッタ場合ニ對スル救済デアアルノデアリマス、換言スレバ明治九年以後ノ毎年ノ給與ノ不足

ニ對シ追給シタル法律デハナイノデゴザイマス、更ニ繰返シテ申シマスレバ、此金祿公債處分ナルモノハ、將來ノ毎年ノ給與ヲ廢止スルコトヲ前提トシテノ救済手段デアッタコトハ疑ヲ容レナイノデゴザイマス、此點ガ此法律案提出者ノ方ミト全然私共ガ見方ヲ異ニスル點デゴザイマス、即チ法律案ヲ提出サレタ方ハ、明治十年以後ノ毎年ノ給與不足ハ明治三十年ノ法律ニ依ッテ追給サレタカラ、ソレト均衡ヲ得ル爲ニ、明治三年カラ明治九年マデノ間ノ毎年ノ給與不足ニ付テモ救済ヲナスベキデアルト云フ、其理論ノ立テ方ガ私共同意イタシ難イノデゴザイマス、只今申上ゲタ點ガ私共ノ此法律案ニ對シテ同意イタシ難イ一番主ナル根本點デゴザイマス、更ニ進ンデ、明治三年カラ九年マデノ給與不足ヲ救済スルト云フ問題ヲ、然ラバ此明治三十年ノ家祿賞典祿處分法トノ權衡ト云フコトヲ暫ク離レテ考ヘテ見デハドウカ、ソレデ若シ單純ニソレダケノ別ノ法律トシテ考ヘテ、ソレデ尙ホ一ツノ理由ガ有ルカト云フコトモ考ヘテ見タノデゴザイマス、併ナガラ此法律案ニ依ッテ救済シヤウトスル明治三年カラ九年マデノ間ノ祿ノ給與不足ニ對スル請求權ト云フモノハ、假ニ之ヲ權利ノ觀念カラ考ヘテ見マス

ルト云フト、是ハ一種ノ普通ノ俸給權ノ請求ト云フ問題ニ外ナラナイト考ヘマス、勿論中ニハ今日所謂俸給權ト性質ノ違フタモノモゴザイマセウ、例ヘバ賞典祿ノ加キハ俸給權ト云フヨリハ、寧ロ今日ノ金鵄勳章年金ニ近イヤウナ性質ガアルノデハナイカトモ考ヘラレマス、併ナガラ何レニ致シマシテモ、サウ云フヤウナ、國家ニ對スル他ニ幾多ノ例ノアル請求權ノ一種ニ外ナラナイノデゴザイマス、今日俸給權其他ノ國家ノ支給ト云フモノガ金錢デ行ハレル、當時ノ祿ガ當初米デ支給サレタ、或ハ後ニハ是ガマタ金ニ代ッテ居ルコトモ御承知ノ通りデゴザイマス、サウ云フ場合ニ此普通ノ國家ニ對スル請求權ノ一ニ過ギナイ權利ノ支給不足ガアッタト云フコトニ對シ、今日六十何年經ッテ、ソレヲ完全ニ支給シテヤルト云フコトガ、今日ノ法制上考ヘ得ルコトデア

派ナ權利ヲ持ッテ居ル場合デモ其權利ノ履行ヲ求メルコトガ出來ナイト云フ制度ニナッテ居リマス、是ハ國家社會ノ法律秩序、經濟秩序ヲ維持シテ行ク爲ニ必要ナル制度ナルガ故ニ斯ウ云フモノガ出來テ居ルト思ヒマス、是ハ獨リ日本ノミナラズ今日イヅレノ國ニ於テモ其例ヲ見ル所デゴザイマス、故ニ若シ明治初年ノ此祿ノ給與ト云フ問題ニ付テ新ナル立法ニ依ッテ其不足分ヲ追給シテヤルト云フ手段ヲ執ッタナラバ、其後ニ於テモ國家ニ對スル國民ノ請求權ト云フモノガ何等カノ理由ニ依ッテ完全ニ拂ハレテ居ラナイト云フモノガ澤山アルト思ヒマス、將來サウ云フ問題ニ付テ救済スベシ、或ハ此關係人カラ請願ガアッテ立法ヲ求メラレタ場合ニ、如何ニソレヲ區別スルカ、是ハ私共ノ考デハ此分ダケガ斯ウ云フ特性ガアルカラ、立法ニ依ッテ特別ナル措置ヲシテ宜イ、其外ノモノハイケナイノデアルト云フ區別ヲ發見シ難イノデアリマス、然ラバ明治三十年ノ家祿賞典祿處分法ニ依ッテアア云フ救済手段ヲ執ッタノハ、適當デア

カドウカト云フ問題ガ起ルト思ヒマス、是ハ勿論當時ニ於テモ政府提出法律案デハナカッタサウデゴザイマスガ、從ッテ今日カラアア云フ立法ガ適當デアアルカドウカト云フコトニ付テハ、多少ノ問題ハアルカト思ヒマスガ、併シ此問題ト比較シテ考ヘマスト云フト、アノ場合ハ比較ニナラナイ程大キナ理由ガアッタト思ヒマス、是ハ先程申上テ居リマシタ此毎年ノ祿ト云フモノヲ、モウ全廢スルト云フ大キナ改革ヲシタノデゴザイマス、若シ其大キナル改革ニ依ッテ關係者ノ生活上ノ基礎ガ一舉ニ失ハレルノデゴザイマスカラ、ソレニ對スル救済トシテ若干ノマア一時金的ノ救済ガ行ハレタ、是ガ金祿公債處分デゴザイマスガ、サウ云フ大キナ國家變革ノ場合ノ一時的手段ニ若シ誤リアリトスレバ、是ハ抛ッテ置クト云フコトハ妥當デナイ、又他ニサウ云フ類似ノ均衡論等ノ起ルベキ問題デハゴザイマセヌ故ニ、當時斯ウ云フ非常手段トシテ、立法ニ依ッテ明治九年ノ行政處分ニ對スル手落ト云フモノヲアトカラ是正サレタト云フコトハ、是ハ尙ホ若干ノ議論、批評ノ餘地ハアルトシテモ、今日ノ提案サレテ居ル法律案トハ比較ニナラナイ程廣イ根據ヲ持ッタ救済手段デアルト私共考ヘテ居リマス、次ニ此問題ヲ只今ハ國家ニ對スル請求權ノ給與未濟、法律上ノ見地カラ見タノデゴザイマスルガ、今度ハ方向ヲ變ヘマシテ、マアサウ

云フ法律上ノ權利トカ云フコトラヤカマシク言ハズニ、免ニ角當時關係者ハ明治九年迄ノ間ニ於テモ、何等カノ理由ニ依ッテ祿ノ貫ヒ不足ガアッタノデアルカラ、ソレ等ノ人達ハ非常ニ迷惑シテ居ル、損ヲシテ居ルノデアルカラシテ、其本人又ハ家名承繼人ニ對シテ救済シテヤルノガ至當デヤナイカ、マア權利ト云フヤウナヤカマシイコトハ言ハズトモ、救済シテヤル必要ガアルノデハナイカト云フ救済論ノ見地カラモ考ヘテ見ル必要ガアルト思ヒマス、此點ニ付キマシテハ其當時色ミノ理由カラ若干ノ給與不足ノアッタト云フコトハ私共モ事實デアラウト考ヘテ居ルノデス、併ナガラ當時ソレニ對シテハ色ミ救済ノ途モ講ゼラレテ居ッタヤウデアリマス、其證據ニハ明治何年デシタカ、何時マデニ其救済ノ願ヲ出サナケレバ後ハ受付ケナイト云フヤウナ布告モ出テ居リマス、サウ云フヤウナコトカラ考ヘテ見マシテモ、出來ルダケサウ云フヤウナコトハ救済シヤウト努メタコトハ窺ハレルノデアリマスガ、ソレハ免モ角ト致シマシテ、其當時若干ノ給與不足ガアッタシテ居ル、或ハソレガ爲ニ生活上困ッタト云フヤウナコトハアラウト思ヒマス、併ナ

ガラ其當時ノ關係者ハ免ニ角ソレニ依ッテ其生活ヲ切抜ケテ來テ居リマス、而シテ今日六十何年モ經ッテ居ルノデアリマスカラ、其當時ノ關係者ニシテ生存シテ居ル方ハ少イト思ヒマス、今日ハ其子供トカ孫トカ、或ハ其次ノ代ニナッテ居ル方ガ大部分デナイカト思ヒマス、サウ云フ場合ニ、其當時其關係者ガ生活上若干ノ不利益ヲ受ケタカラト云ッテ、今日ノ家名承繼人ガ其窮狀ヲ其儘承繼シテ居ルトハ私共考ヘラレナイノデアリマス、從テ單ナル救済問題ノ見地カラ考ヘテ見マシテモ、其當時ノ關係者及其家名承繼人ニ對シテ此法律案ニ期待シテ居ル如キ救済ノ措置ヲ取ルノハ果シテ妥當デアルカドウカ、私共ハ大イニ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、更ニ此秩祿處分ノ從來ノ沿革カラ考ヘテ見マシテモ、大正八年ニ法律第三十四號ガ制定サレ、明治三十年ノ法律ニ依ル救済ニ關スル出願漏等ノ者ヲ救済スルコトナリマシタ際ニ、秩祿處分ニ關スル救済ハ之ヲ以テ最後トスルト云フコトガ、當時ノ政府ノ是等ノ法律案ニ同意スル理由デアリ、又貴衆兩院ニ於テモサウ云フ御含ミヲ以テ此法律案ガ成立シタモノト考ヘテ居リマス、此點ニ付キマシテハ此衆議院ノ法律案提出者側ニ於キマシテハ、此秩

祿問題ノ打切ト云フ範圍ガ違フ、サウ云フ全部ノ打切ノ意味デナイ、打切ルト云ッテモ其問題ノ範圍ガ違フト云フ御考ノヤウデアリマス、併ナガラ私共ハ、當時打切ノ方針ト云フモノハ、サウ云フ細カク内容ヲ列舉シテ是レハ打切ルト云フ風ニ示サレテ居ル譯デナイノデゴザイマスカラ、私共ハサウ云フ問題ガ何時マデモ後カラ後カラト出テ來ルノ方面白クナイト云フ大體ノ觀點カラ、當時サウ云フ意思表示ガ政府並ニ議會雙方ニ於テ爲サレタモノト考ヘマスカラ、私共ハ其當時ノ方針ト云フモノヲ廣義ニ解シテ、今日再ビ此問題ヲ取上グルコトハ、當時ノ政府及議會ノ意思ニモ反スルモノト私共ハ考ヘテ居リマス、次ニ萬一此法律案ガ兩院ヲ通過シ、法律トシテ成立シタ場合ニ、果シテ公平ニ此法律ヲ運用ガ出來ルカト云フコトヲ考ヘテ見マスルト、此調査ト云フモノハ何分六十數年前ノ古イコトヲ調べルコトニナリマスルノミナラズ、從來ノ秩祿問題關係カラ大藏省ニ取寄セテ居リマシタル所ノ重要書類ハ、殆ド全部大正十二年ノ震災ニ依ッテ焼失シテ居リマス、サウ云フヤウナ關係ガアリマスルノデ、假ニ此法律案ガ成立イタシマシテモ、公平ニ此法律ヲ施行スルト云フコトハ、非常ニ困難デハ

ナイカト云フコトヲ憂慮サレルノデアリマス、次ニ郷又ハ町村ノ祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案ニ付キテノ意見ヲ申上ゲマス、是モ矢張り秩祿問題ノ一ツデゴザイマスルカラ、大體ノ見方ニ於テハ只今家祿賞典祿給與未済ニ關スル法律案ニ付テ申上ゲマシタ考ヘ方ガ共通ニナルノデゴザイマスルガ、特ニ此方ノ法律案ニ付テ、更ニ一點政府ノ同意シ難イ重大ナ理由ガ加ハッテ居ルノデゴザイマス、此法律ハ明治三年九月太政官布告、藩制施行以後、祿高ヲ有シタル郷又ハ町村ニ於テ、其祿高ニ對スル公債證書ノ給與ヲ受ケザル者及其給與ノ不足アル者ニ對シ、明治三十年法律第五十號等ヲ準用シ公債證書ヲ給與セムトスル法律案デゴザイマス、此法律案提出ノ理由ヲ拜見イタシマスルト、鹿兒島藩ニ於テ郷又ハ町村ガ協力高ト稱スル祿高ヲ有シテ居ッタノデアリマスガ、當時ノ關係者ガ明治三十年法律第五十號ニ依ッテ給與不足ノ救済ヲ出願イタシマシタル所、行政裁判所ハ大正十一年ノ判決ヲ以テ鹿兒島藩ノ協力高ハ郷ナル團體ノ祿デアッテ、郷士族ノ家祿デハナク、從テ各士族ガ明治三十年法律第五十號ニ依リ公債證書ヲ交付ヲ請求シ得ベキモノデハナイト云フ判決ヲ受ケタ所、新ニ法

律ヲ制定シテ其不十分ナル所ヲ補ヒ、鹿兒島藩ノ郷又ハ町村ノ協力高ニ付テ救済ノ實行ヲ圖リタイト云フノガ主眼トナッテ居ルノデゴザイマス、此郷又ハ町村ガ一種ノ共有ノ觀念デ祿ヲ持ッテ居ッタト云フコトハ、鹿兒島藩以外ニハ例ガナイヤウデゴザイマスカラ、此立法ハ鹿兒島藩關係ノ特有ノ立法トナルノデゴザイマス、勿論是モ秩祿制度ノ一ツデゴザイマスルガ、大藏省ノ之ニ對スル反對理由ハ、先程モ申述べマシタル如ク、他ノ法律案ニ付テ申上ゲタコトト大體共通ニナルノデゴザイマスガ、特ニ此法律案ニ付テ同意イタシ難イノハ、大正十一年ノ行政裁判所ノ判決ト云フノガ、此法律案提出ノ理由ノ中ニ掲ゲテアルガ如ク、鹿兒島藩ノ協力高ハ郷士族ノ家祿ニアラズ、從テ各士族ガ之ニ付テ明治三十年法律第五十號ニ依リ公債證書ノ下付ヲ請求シ得ベキモノニアラズト云フ、此出願者ノ資格ト云フ形式的理由ノミニ依ッテ原告敗訴ノ判決ヲシタノデハナイノデゴザイマス、此判決ノ他ノ理由トシテ、鹿兒島藩ノ協力高ハ明治四年届出ノ士族卒祿高取調帳記載ノ一萬七千餘石ニシテ、此以外ニ届出漏ノ協力高ナシ、斯ウ云フコトガ當時行政裁判所ノ判決理由ノ一半ヲナシテ居ルノデアリマス、故

ニ當時ノ行政裁判所ノ判決ト云フモノハ單ニ形式上ノ審理ヲシタニ止ラズシテ、内容ニ於テ當時ノ鹿兒島藩ノ關係者ノ申請ト云フモノハ理由ガ無い、換言イタシマスレバ、假ニ明治三十年ノ法律ニ依ッテ其出願者ノ資格トシテハ合法的ダッタトシテモ、此訴訟ハ敗訴スベキ運命ニアッタノデゴザイマス、斯ウ云フ理由デ當時ノ關係者ガ一審制度デアル所ノ行政裁判所ノ判決ニ於テ破レテ居リマスルノニ、再ビ此法律案ニ依ッテ其問題ヲモウ一度審理シテ貰フ、アノ時ノ行政裁判所ノ判決ハ間違ッテ居ルト云フコトヲ理由トシテ、サウ云フ救済手段ヲ講ズルコトハ行政裁判所ノ判決ニ對シテ再審理ノ途ヲ開クコトニナルト思ヒマス、是ハ國家トシテ餘程重大ナル問題デアルコトヲ考ヘネバナラヌト思ヒマス、行政裁判所ガ鹿兒島藩ノ協力高ノ届出漏ガ無イト云フコトヲ如何ナル資料ニ依ッテ判決シタカ、又今日關係者ノ諸君ガ是ハ間違ッテ居ル、届出漏ガアルト云フコトヲ如何ナル資料ニ依ッテ主張スルカト云フコトハ、茲ニ詳シク申述ベルコトヲ避ケマス、併ナガラ何處ノ裁判所ニ於キマシテモ判決ヲ致シマスル場合ニハ、ソレ迄ニ備ハツタル有ユル資料ニ依ッテ判決スルノ外ハアリマセヌ、而シテ多數ノ行政

裁判或ハ民事、刑事裁判ニ於キマシテモ、或ハ其後ニ於テ其判決ヲ覆スニ足ルヤウナ事態ガ出テ來ナイト云フコトハ是ハ絶無トハ言ヒ難イト思ヒマス、マアサウ云フコトモアルカトモ思ヒマス、併ナガラ國家ノ裁判制度ト致シマシテハ、サウ云フコトヲ取上ゲテ居ッデハ、ソレハモウ何時マデ經ッテモ事件ノ切リハ付カナイト思ヒマス、從ヒマシテ如何ナル有力ナル資料カハ存ジマセヌガ、サウ云フコトヲ理由トシテ國家ノ法律ヲ以テ一審制度ト定メテ居ル行政裁判所ノ判決ヲ、モウ一度ヤリ直スコトヲ強制スルコトハ國家トシテ宜シクナイト考ヘルノデアリマス、更ニ其資料ノ證據ノ内容ト云フヤウナモノニシテ傳ハル所ヲ伺ヒマスト、假ニ其人達ガ言フ通りトスルト、當時ノ鹿兒島藩ノ祿高ガ總高幾ラト定ッテ居ルノデアリマス、然ルニ若シソレ等ノ證據書類ガ本當ニ其人達ノ言フコトヲ立證スルモノダトスルト、鹿兒島藩ノ祿高總體ガ殖エチマフコトニナルノデアルト云フコトヲ伺フノデゴザイマス、併シ是ハ私共其資料ヲ現實ニ調べタ譯デハアリマセヌカラ、茲ニ其眞否ハ申上ゲ兼ネマスガ、假ニ其人達ガ言フ通りダトスルト、サウ云フ重大ナ結果ニモナルト云フコトヲ伺ッテ居リマス、併シ私

共ハソレヨリモ只今申上ゲマシタ矢張り此國家ノ裁判所ノ最終判決ハ尊重スベキモノデアルト考ヘルノデゴザイマス、更ニ先程速記ヲ止メテ居リマスル間ニチヨット申上ゲマシタ點ハ財政トノ關係デゴザイマス、是ハ詳シクハ申シマセヌガ、簡單ニ私共ノ考ヲ述ベマスト云フト、衆議院ニ於ケル本案提出者ノ諸君ガ、大藏省ハ多分財政上ノ理由ノミニ依ッテ反對スルンダラウト云フ風ニ申サレテ居ルノデアリマスルガ、私共ハ左様デハゴザイマセヌ、今日我國ノ財政上非常ニ困難ノ情況ニアリマシテ、國家トシテ幾多ノ緊急ナル施設ヲモ財政難ノ故ニ實行シ難イヤウナコトガ多アルノデゴザイマス、或ハ又地方ノ農山漁村ニ致シマシテモ、或ハ災害地ノ人達ニシテモ、若シ財政ノ餘裕ガアレバモット救済ヲ急ガナケレバナラヌヤウナ事態モ少クハナイト考ヘテ居リマス、サウ云フ時代ニ於テ理由ノ薄弱ナル問題ヲ、是モ古イ問題ヲ取上ゲルコトハ甚ダ權衡ヲ得ナイト考ヘルノデゴザイマシテ、此財政上ノ見地カラモ勿論考究セネバナラヌ問題デアリマスガ、併シ財政トノ關係ハ私共ヨリモ皆様方モ特ニ十分ナル御考ヲ御持チニナルコトト考ヘマスルノデ、特ニ其點ニ關スル論及ハ避ケマス、併シ繰

返シテ申上ゲマスガ、大藏省ハ決シテ財政上ノ理由ニ依ッテ斯ウ云フ多年ノ懸案ヲ何時マデモ放任スルト云フコトハナク、法律案ノ根本ノ理由ニ付テ同意シ難イカラ贊成出來ナイ、斯ウ云フ風ニ申上ゲル次第デゴザイマス

○男爵伊江朝助君 只今政府委員ノ御説明モ一應諒ト致シマス、一々之ヲ反對スル必要モ、反對スルコトモ申上ゲマセヌケレドモ兔ニ角明治三十年交付公債ガ發行サレテ、是レ以上ハ請求ニ應ジナイト云フ附則ハアルノデス、デスケレドモ明治三年カラ九年マデ恩給ニ漏レタモ者モアツタコトハ是ハ事實デアリマス、是ハ政府ノ調査ガ行届カナカッタト云フコトニナルノデアリマス、政府委員ノ仰シヤッタヤウニ法律論トシテ無暗アラウカト思ヒマス、恩賞ト云フノハ決シテ法律論デ片付ケル性質ノモノデハナイト思ヒマスシ、又殊ニ先程申上ゲマシタ通り衆議院デ七回通ッテ來タ問題ヲ、貴族院デ始終之ヲ拒否スルト云フコトハ、思想的ニ考ヘマシテモ、或ハ又政治的ニ考ヘマシテモ私ハ相當政府及議員ガ顧慮スベキ問題デアルト思ヒマス、此問題ニ對シテ政府委員ノ御説明ハ既ニ盡キタノデアリマスカラ、此

際委員長ノ方デ適當ナ方策ヲ講ゼラレテ、何トカ協議會デモ御開キニナツテ、一ツ十分ニ各員ノ胸襟ヲ開カレテ懇談シタイト云フ希望ヲ持ツテ居リマス

○委員長(伯爵二荒芳徳君) 外ニ政府委員

ノ御説明ニ對シテ御質問ゴザイマセヌカ

○政府委員(青木一男君) 尙ホ一點附加ヘ

テ置キタイト思ヒマスガ、伊江男爵ノ仰セノ如ク、此法律案ガ衆議院ヲ數回通過シテ居ルノデゴザイマス、從來此委員會ニ於キマシテ政府ハ常ニ反對ノ意思ヲ表明シ、委員側ハ法律案賛成ノ意見ヲ唱ヘテ居タノデゴザイマスガ、本年ニ於テハ委員ノ間ニ反對ノ意見ガアルノデゴザイマス、是ハ今マデ曾テ見ルコトノ出來ナカッタ現象デゴザイマス、而シテ反對者ノ主ナル理由ハ、今日非常ニ世相ガ險惡デアル、貧困者モ隨分多イ、サウ云フ場合ニ此士族等ノ諸君ハ此古イコトヲ取上ゲズニ、矢張り此武士的精神カラサウ云フ主張ハ棄テラレタ方ガ宜イデハナイカト云フヤウナ見地デ、此委員ハ反對サレタノデゴザイマス、ソレカラ只今男爵ノ、恩賞ニ關スル問題ヲ法律的ニ扱ッテシマフノハ宜クナイト云フ仰セデゴザイマス、ソレモ一ツノ見方ト考ヘマスガ、此恩賞ニ付テノ高ト云フコトハ、是ハ明治九

年ノ金祿公債處分ニ付テ、其公債ガ給與不足ガアツタト云フコトデアリマスルト、只今仰セノ如キ關係ニナルカト思ヒマス、是ハモウ全ク恩賞デゴザイマス、國家ノ制度トシテ祿ヲ廢スルト云フコトモ國家ノ制度トシテ爲シ得ル所デアリマス、併シ廢シ放シデハイカヌカラ、代リニ一時的ノ公債ヲヤラウト云フコトハ、明治九年ノ金祿公債處分デアリマスカラ、此處分ニ付キマシテ、或ハ只今男爵ノ仰セノ如ク恩賞ニ關スル異例ノ處置デアルカラ、是ニ付テ法律論ヲトヤカク言フノハドウカト云フ御意見モ出ルト思ヒマス、從テ明治三十年ノアノ立法ト云フコトハ其精神カラ出テ居ルモノト考ヘマスガ、併ナガラ法律案ノ骨子ニナツテ居ル明治三年カラ九年マデノ給與未濟ト云フ分ハ、是ハドウモ從來ノ矢張り封建制度以來ノ、今日デ言フ俸給ノ如キ類似ノ制度デアリマシテ、ソレ自體ガ只今仰セノ如ク全部恩賞ト云フ問題ニナルカト云フコトハ、是ハ餘程考ヘ方違フノデナイカト云フ風ニ思ヒマスノデ、併セテ御考ヲ願ヒタイト思ヒマス

○侯爵大隈信常君 チョット私カラ二ツバ

カリ伺ヒタイ、只今ノ御説明ニ依リマス、明治三十年ノ處分法ト云フモノハ明治九年

以後ト云フ御話デアッタガ、三年カラ九年ノ間ハソレデヤドウシテ及ンデ居ラナカッタカト云フ理窟デアリマス、ソレヲ伺ヒタイ、モウ一ツ萬一此法律ガ通ツタ時ニ甚ダ不便ガアルト云フ御話ガアッタ、其御理由トシテ大正十二年大火災ニ於テ書類ガ皆燒失シテ居ルカラ甚ダ調ベニクイ、斯ウ云フ御話デアリマシタガ、此處ニ此家祿賞典祿關係者カラ寄越シタ書類ノ中ニハ斯ウ云フコトガ書イテアル、此書類ハ二通アツテ、一通ハ家名承繼人ガ保存シテ居ル、或ハ訴訟ニ依ッテ行政裁判所ニ現在アルノダカラシテ、一ツガ無クナツテモ之ヲ以テヤレバ敢テ調査ニ困難ヲ來スコトハナイト云フコトヲ書イテアリマスルガ、其點ヲ一ツ承リタイト思ヒマス

○政府委員(青木一男君) 明治三十年ノ家

祿賞典祿處分法ノ明治三年カラ九年迄ノ分ノ給與不足ノ救済ガ含マレテ居ラナカッタノハ、ドウ云フ譯デアルカト云フ御尋デゴザイマシタガ、此點ガ此問題ノ一ツノ骨子ニナルノデゴザイマシテ、先程モ申上ゲマシタ如ク、明治九年ノ金祿公債證書發行條例ト云フモノハ、明治十年以後ノ祿ノ給與ヲ廢止スルコトヲ前提トシテ、唯廢止シテハ非常ニ關係者ノ生活ノ基礎ヲ脅カシ、又

社會ノ安寧ニモ差支ヘマスルノデ、アア云フ一時的ノ公債交付ト云フ恩賞ヲ行ハレタモノト考ヘテ居ルノデアリマス、從ヒマシテ此明治三十年ノ家祿賞典祿處分法ト云フモノハ、其先例モ無イ重大ナル恩賞行爲ニ手落ガアッデハナラヌト云フコトカラ、アア云フ後カラ遡ッテ救済法ガ講ゼラレタノデゴザイマシテ、決シテ明治十年以後ノ毎年ノ祿ノ給與不足ヲ此法律デ追給シタト云フコトデハナイノデゴザイマス、若シ明治十年後ノ毎年ノ給與不足ヲ明治三十年ノ法律デ追給シタト云フコトニナレバ、ソレナラバソレト同ジヤウニ明治九年カラ古イコトモ救済スベキデハナイカト云フ權衡論モ起キテ來ルト思ヒマスガ、先程モ申上ゲマシタ如ク、明治三十年ノ家祿賞典祿處分法ハ決シテ明治十年以後ノ毎年ノ給與不足ヲソレニ依ッテ追給シテヤッタト云フ譯デハナイノデゴザイマス、是ハ寧ロ十年以後ノ毎年ノ給與ヲ廢スル、其代リニ何ガシカノ一時金ヲヤル、其一時金ニ不足ガアツタト云フコトニ付テハ、明治三十年ノ此家祿賞典祿處分法ニ依ッテ救済ヲ圖ツタノデアリマス、從ヒマシテ明治九年ヨリモ前ノコトハ問題ニナラナカッタト云フコトハ、是ハ寧ロ當然デハナイカト斯ウ考ヘテ居リマス、次

ニ此證據書類ノコトデゴザイマスガ、是ハ只今仰セノ如ク、或ハ一部關係者ノ手許ニ殘ッテ居ル、或ハ行政裁判所ニアルト云フモノモアラウカト思ヒマス、併ナガラ燃エテシマツタ分モ大分アルノデゴザイマスカラ、是デ公平ニ其關係者ノ同ジヤウニ救済ヲ圖ラウト云フコトニナル場合ニ、隨分片手落ナコトニナリハシナイカト云フコトラ虞レルノデゴザイマス

○侯爵大隈信常君 甚ダクドイヤウデスカレドモ、其最初ノマダチヨット私ハ分ラヌ所ガアリマスガ、九年迄ハ何カ給與シテ居タノデゴザイマスカ

○政府委員(青木一男君) 明治九年迄ノ毎年ノ此祿ノ給與ト云フモノハ、是ハ封建時代カラノズット承繼デゴザイマシテ、其義務ハ政府ニ引繼ギ、或ハ維新ノ勳功ニ依ッテ更ニ國家トシテ其祿ノ給與ヲ追加シタ分モゴザイマスガ、ソレデ此法律案ニ云フテ居ル如ク、九年迄ノ間ニモ若干ノ間違カラ給與ガ不足シテ居タト云フコトハアッタウト思フノデアリマス、是ハアッタラウト思ヒマス、ソレハ此各藩ニ於テ藩債償却其他ノ爲ニ減俸ト云フヤウナ處置ヲ……一割減俸、二割減俸ト云フヤウナ減俸ノ處置ヲ執ツタ所モアリマシテ、サウ云フ場合減俸ガ

俸給ヲ減シタト云フ實質デサウナツテ居ルカ、或ハ俸給ヲ受ケテ其一部ヲ寄付シタト云フ風ニナルカト云フ其整理ノ仕方ノ爲ニ、サウ云フ風ノ間違ガ起キタ所モ隨分アルラシイノデアリマス、從ヒマシテ當時若干ノ給與ノ貰ヒ不足ト云フモノガアッタラウト思ヒマスケレドモ、當時ニ於テ矢張りソレニ對シテハ、相當ノ救済ノ途モ付ケテ居ッタヤウデアリマス、ソレニ付キマシテハ先程モ申シマシタ如ク、イツ何日迄ニ其救済ヲ願出ナケレバ後ハ取上ゲナイト云フヤウナ布告モ出テ居リマスカラ、サウ云フ事モアッタト思ヒマスガ、併シ只今申上ゲマシタ如ク、是ハ今日デ言ヘバ役人ノ俸給トカ或ハ恩給トカ、或ハ年金トカト云フヤウナモノニ付テ、政府ニ對スル例ヘバ嘗テ戰役ノ場合、俸給ノ何割ヲ政府ニ獻納スルト云フコト、例ヘバサウ云フ事ノ爲ニ將來元ノ通りノ俸給ヲ貰フベキモノガ、假ニ何カノ手違デ貰ハナカッタト云フコトニ大變似テ居ルノデアリマス、ソレデサウ云フヤウナ法律ノ性質ノモノデゴザイマスカラ、假ニ給與不足ガアッタトシテモ、今日ソレヲ取上ゲテ不足分ヲ追給スルト云フコトニナレバ、國家ニ對スル他ノ類似ノ債權デアツテ、其後色ミノ理由カラ支拂ハレナイモノモ澤山ゴザイマス

カラ、サウ云フモノトノ權衡上、ソレダケヲ取上ゲルト云フコトノ理由ガ薄弱デハナイカト云フコトガ、私共ノ心配ノ一番大キイ點デアリマス

○委員長(伯爵二荒芳德君) 外ニ政府委員ニ對スル御質問ハゴザイマセヌカ

○男爵伊江朝助君 私ハ書類ヲ忘レマシテ、尙ホ御質問シタイコトハ澤山アリマスノデスガ、書類ヲ忘レテ參リマシテ、今日ダケハ保留シテ置キマス

○委員長(伯爵二荒芳德君) ソレデハ之ヲ以チマシテ政府委員ニ對スル御質問ハ、一應今回ノ委員會デハ打切リマシテ、懇談イタシタイト思ヒマス、之ヲ以チマシテ今日ノ委員會ハ散會イタシマス

午後三時一分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵二荒 芳德君
副委員長 眞野 文二君
委員 侯爵大隈 信常君
子爵綾小路 護君
男爵伊江 朝助君
坂野鉄次郎君
下出 民義君
名取 忠愛君

政府委員

大藏政務次官 男爵矢吹 省三君
大藏省理財局長 青木 一男君
大藏省銀行局長 荒井誠一郎君
大藏省外國爲替管理部長 和田 正彦君
營繕管財局理事 關原 忠三君
文部省實業學務局長 菊池豐三郎君
文部書記官 男爵山川 建君